



Data & AI パルス調査： アジア太平洋地域 2024

調査インサイトの提供元



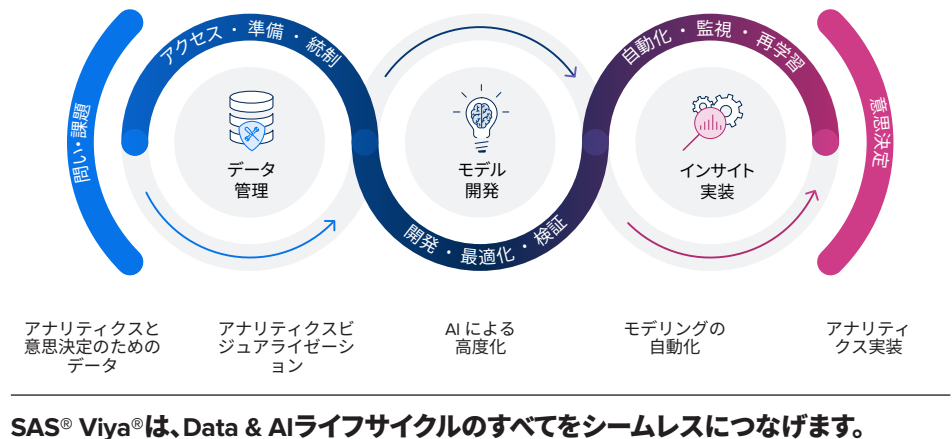
The Power to Know (知る力)

SAS® は Data & AI における世界的リーダーである。SAS のソフトウェアと業界固有のソリューションを活用することで、組織はデータに基づき信頼できる意思決定を行える。SAS は THE POWER TO KNOW® (知る力) を提供しているのである。

詳しくは、sas.com をご覧ください。

「SAS® は、自社製品の戦略的かつ革新的な進歩を継続的に行っています。たとえば、SAS® Viya® によるクラウドネイティブかつ、クラウド環境に依存しない Data & AI プラットフォームや、不正対策インテリジェンス、リスク管理、マーケティングなど、特定の業界や業界横断的なビジネスニーズを満たす目的で設計されたソリューションなどです。Generative AI (生成系 AI: 以下、GenAI) やデータ管理などの新機能や改良された機能を活用することによって、お客様は、ビジネスを強化して市場を変革できる将来を見据えたシステムを、さらに簡単に構築できるようになりました」

Jim Goodnight
CEO (最高経営責任者)
SAS



AI プロジェクトを拡大するために必要なものとは

組織は、GenAI プロジェクトの急増を経て AI の成熟度を高め、AI を活用したビジネスとして自社の地位を確立する必要がある

実験フェーズ

GenAI プロジェクトの急増

2023-2024

このフェーズの特徴：

- さまざまな概念実証 (POC) の急速で無秩序な導入
- 一貫性を欠く戦略とテクノロジー
- AI を「構築」するのではなく「購入」する生産的なユースケースに重点が置かれる



導入フェーズ

AI プロジェクトの転換期

2025-2026

以下を通じて AI の成熟度を高めるフェーズ：

- データ基盤とガバナンスの強化に重点を置き、デジタルプラットフォームの価値を高める
- プラットフォームおよびインフラストラクチャ戦略とそれを支えるテクノロジーをより広範に利用する
- エンタープライズ・インテリジェンス・アーキテクチャにおいて、社内で作成およびファインチューニングされたモデルを使って、よりカスタム性の高い AI テクノロジスタックを構築する
- ビジネス価値の創出との関連性が高い AI ユースケースのポートフォリオを選択して実装する



加速フェーズ

AI 活用ビジネス

2027 年以降

AI を活用したビジネスでは、ほとんどのユースケースに AI が適用され、AI を活用して業務を変革し、イノベーションを加速させて、顧客エンゲージメントを強化できる。AI をコアプロセスに組み込むことによって、組織はよりスマートに業務を遂行し、変化する需要に素早く適応できる。

AI を活用したビジネスモデル

- AI を活用したビジネス戦略
- AI によって拡張された作業
- 統合 AI ガバナンスモデル

AI テクノロジーの運用モデル

- AI プラットフォームオーケストレーター
- 自律型プロセス
- プロダクトとして管理されるデータとモデル
- 目的に合ったインフラストラクチャ



➔ AI 活用を拡大するには、企業が方向転換し、いくつかの新しい能力を開発する必要がある

AI 分野におけるアジア太平洋地域の組織の成熟度

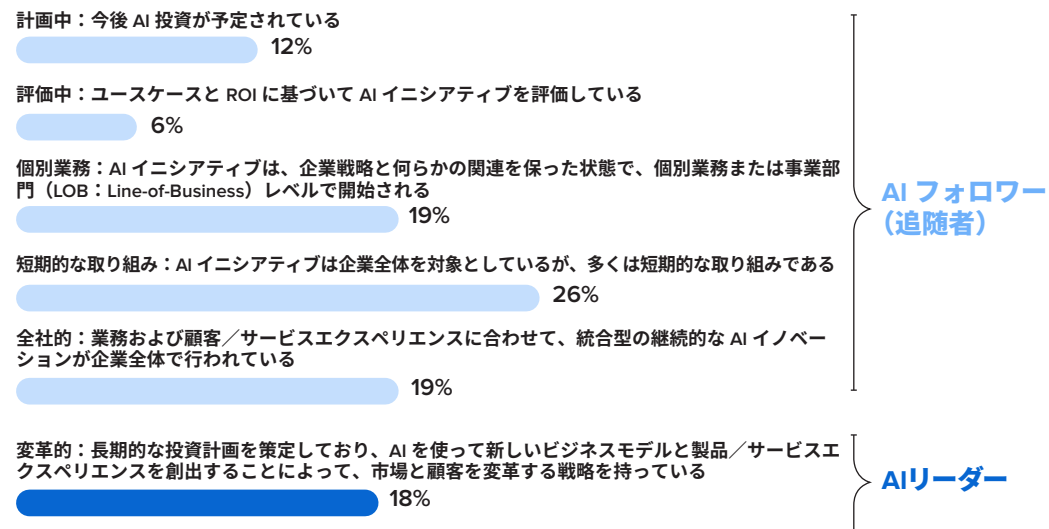
成熟の初期から中期段階にある組織のほとんどは、個別業務ごとの短期プロジェクトとビジネスケースの確立に重点を置いている

組織は、初期の実験段階からさらに進んで、戦術的なアプローチをベースに成熟していき、変革的な効果をもたらす可能性のある戦略的な AI イニシアティブを実装する必要がある。それには、継続的な投資とスキル開発が必要である。後期（前スライドにある AI 活用ビジネス）の段階にある組織はほとんど存在しないことから、AI の統合と拡張が期待以上に難しいことが分かる。

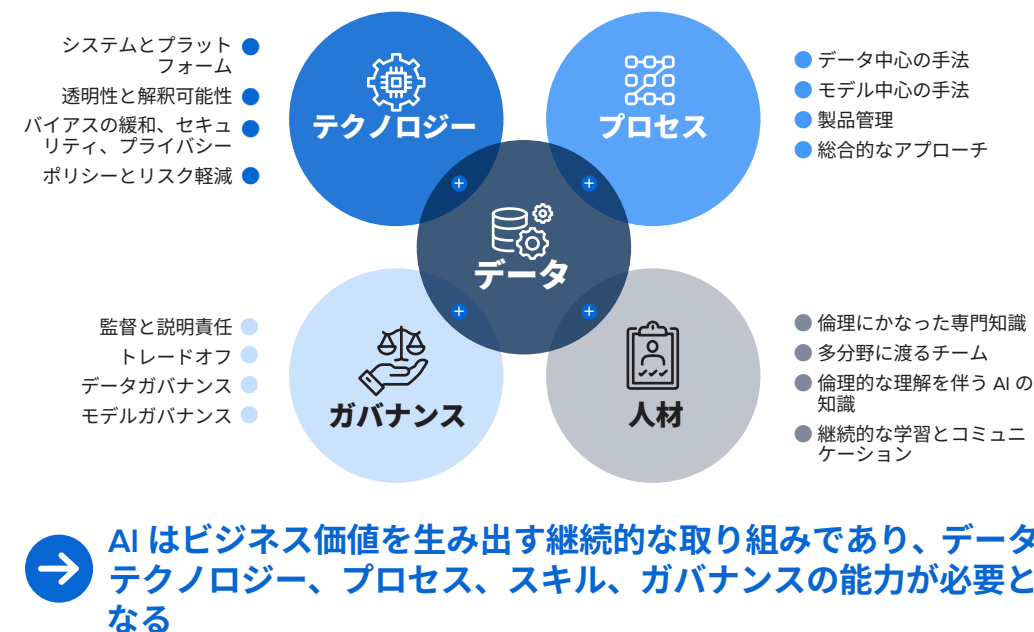
AI 実装において成熟するには、堅牢なテクノロジーシステムとプラットフォーム、データ中心およびモデル中心のプロセス、強力なガバナンス、AI 人材と倫理にかなった専門知識、そして最も重要な点として、高品質なデータを利用可能、という 5 つの基本原則が必要である。AI の統合的活用を成功させるには、アジャイル手法と継続的な改善プラクティスを導入することが不可欠である。

アジア太平洋地域の組織における AI の現状（成熟度）

貴社における AI への取り組みの現状を最もよく表しているのはどれですか？



AI 実装で成功を収めるための 5 つの要素



Source: IDC の「Data and AI Pulse: Asia Pacific」 study, 2024, (n=509)

現在実施中、および計画中の AI ユースケースは何ですか？

アジア太平洋地域の組織は、プロセス自動化などの AI 機能および生産性ユースケースを展開しており、最近ではコード生成などの GenAI ユースケースが関心を集めている

現在実施中の主な AI ユースケース

マーケティングや IT などの個別業務で AI が多用されており、特にコピーライティング、DevOps、テスト、サイバーセキュリティに GenAI が活用されている。同様に、FSI (Financial Services and Insurance) 業界では AI、特にリスクおよび不正検出のための予測型 AI が優先的に利用されている。



コピーライティング



ビジネスプロセスと
ワークフローの
自動化



コード
生成



不正検出
とサイバーセ
キュリティ



予測分析と
時系列予測



製品とサービスの
イノベーション



データ
拡張

今後（1年以内）の主な AI ユースケース

今後 12 か月以内に AI を導入する予定の企業は、コード生成やコピーライティングではなく、予測分析、不正検出、製品／サービスのイノベーションなど、データ主導のユースケースに重点を置いている。高度な AI ユーザーは通常、標準的なユースケースを超えて活用するため、予測分析に重点が置かれていることは、同地域における AI の成熟度が十分ではないことを示唆している。AI の成熟度が高まるにつれて、組織はマーケティング、ナレッジ管理、製品のイノベーション、研究開発、データ拡張など、GenAI 主導の用途に移行する可能性がある。

➔ AI フォロワーは個々のユースケース開発を行う。対して、AI リーダーは戦略的なユースケースポートフォリオを作成する。

AI の信頼性を高める方法

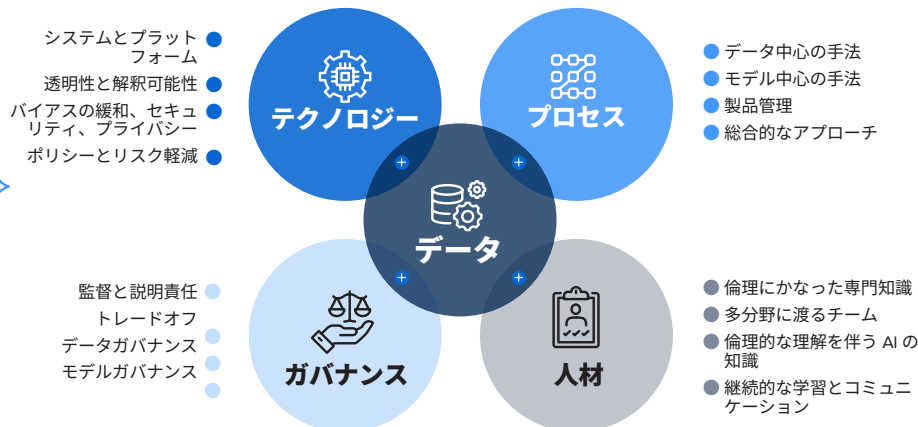
テクノロジー、プロセス、人材、ガバナンスに基づいて、信頼できる Data & AI の取り組みを始める

AI 倫理

AI 倫理は、AI の使用をユーザーの期待、組織の価値観、社会の法律や規範に合わせるための哲学的基盤と考慮事項を提供する。

AI 倫理は、企業とそのエコシステム全体に渡って AI の開発、展開、使用を正しい方向へ導く。

責任ある AI の能力



信頼できること

- ・信頼性と安全性
- ・公平性と差別の撤廃
- ・透明性と説明可能性
- ・プライバシーとセキュリティ
- ・説明責任と責務
- ・倫理的な整合性
- ・社会と環境の幸福

- 責任ある AI のプラクティスは、データのバイアスやデータ損失に対する保護を実現して、強力なガバナンスとプロセスを確保し、信頼性と安全性の高い AI ソリューションの中核となる。
- 経営幹部全員が、リーダーシップ、デューデリジェンス、職場の変化への対応、社内外のパートナーの検討において役割を果たす必要がある。

次の方法で倫理的な整合性をオペレーショナライズする (AI の倫理的配慮を実際の業務プロセスに適用) :

+ バイアスを避けるため、公平性を念頭に置いて AI を開発する

+ AI システムの透明性と、その決定が説明可能であることを保証する

+ AI システムが危害を引き起こした場合の説明責任と賠償のメカニズムを組み込む

IDC は、責任ある AI を、公平性、信頼性と安全性、プライバシーとセキュリティ、包括性、透明性、説明責任を確保できる方法で AI を設計、開発、展開するプラクティスと定義している。

➔ AI 倫理の軽視は単に道德上の問題があるだけではない。AI の信頼性、公平性、説明責任を損なう重大なビジネスリスクである。

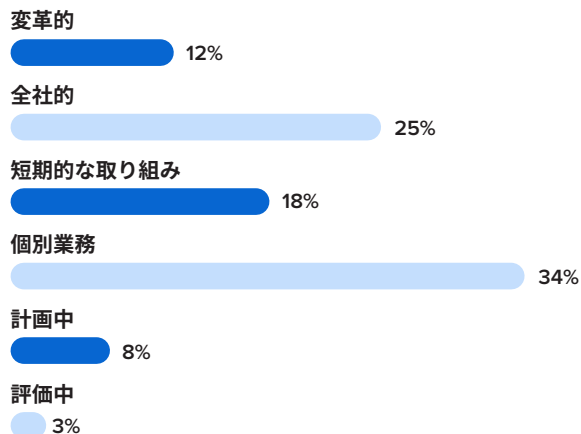
AI 分野における日本国内の進捗状況



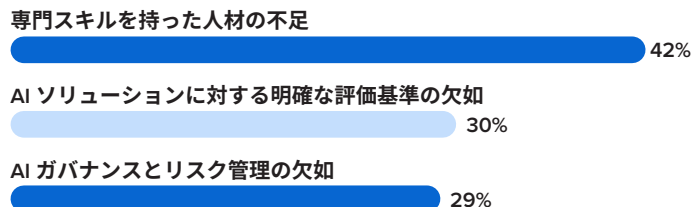
ほとんどの組織はAIを個別業務レベルで展開しているが、非効率的なデータ管理とデータの制約によってAIの十分な活用が妨げられている。

- 国内の組織は、AIを活用して業務効率を改善し、ビジネスの回復力を高めて、イノベーションを促進している。しかし、AI実装の基礎的要件であるAIスキルの不足、AIパフォーマンスの評価基準の不十分さ、包括的なAIガバナンスフレームワークの欠如など、大きな課題に直面している。その結果、半数の組織は、短期的な視点を持ちながら、個別業務レベルでのみAIを導入しており、組織全体におけるより戦略的な実装までは進んでいない。
- データ量の増加と、データセットの絶え間ない変化や変化の結果として起こる急速な陳腐化によって、関連性と正確性を維持するには継続的な更新が必要となるため、データ管理が難しくなっている。ビジネス上の制限とインフラストラクチャ両面の制約から、企業が必要なデータを取得できないというデータアクセスの問題が生じており、AIシステムの可能性がさらに制限されている。

日本におけるAIの成熟度



AIテクノロジーの実装における最大の課題



AIイニシアティブによって得られるビジネス成果のトップ3



ビジネスレジリエンスの改善

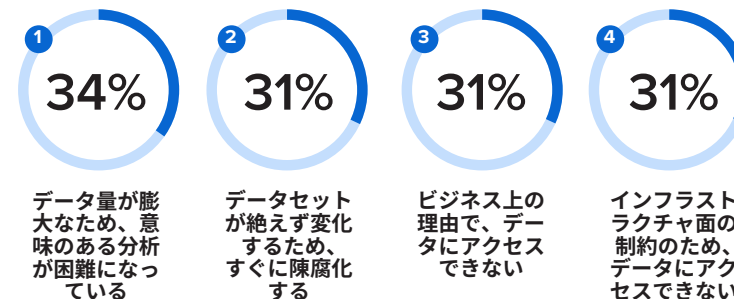


業務効率の向上



よりイノベティブな取り組み

データ管理とアクセス制限がAI活用の失敗につながっている



日本国内における AI パフォーマンスの重要な要素



組織は AI パフォーマンスを向上させるためにデータプラットフォームと ModelOps に目を向けているが、「信頼できる AI」（技術的正確性だけでなく、倫理や社会性の観点でも信頼できること）も同様に重要である。

- データに関する課題が生じていることから、国内の組織は、AI パフォーマンスの向上と AI 運用の合理化を実現するため、データプラットフォームと ModelOps に注力する必要性に迫られている。自動化と効率性を重視した AI への「オペレーショナルライズ」アプローチによって、実際にプロセスを最適化し、スケーラビリティを高めることができる。
- 現在、日本には AI に特化した規制はなく、今すぐ導入される見通しもない。むしろ、政府は、民間企業の自主規制に頼りながら拘束力のないガイドラインを提供する、イノベーションを受け入れやすい軽いタッチの「アジャイルガバナンス」アプローチを支持している。その結果、企業レベルで AI パフォーマンスを推進する重要な要素として、「責任ある AI」があまり重視されていない。しかし、AI とデータ管理システムは、自動化を超えて人間による監視を組み込み、機械だけでは処理できない微妙な複雑さに対処しなければならない。

AI パフォーマンスを高めるための 5 つの重要な要素



モデル管理
ModelOps



堅牢なモデルトレーニングと検証テクニック



データ分類ツール
DLP (Data Loss Prevention) ツール



既存システムとの統合

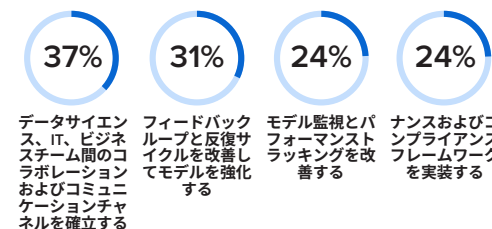


継続的なデータ監視

責任ある AI プラットフォームの優先事項

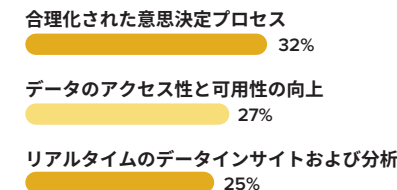
- 人間による監視
- ステークホルダーの関与と教育
- モデルの検証とテスト

ModelOps の優先事項



AI モデルのガバ

データプラットフォームによって意思決定とデータ品質が強化される



→ AI を効果的に拡張するため、国内の組織は、まだ規制で義務づけられていなくても、責任ある AI プラクティスを強化する必要がある。これによって、リスクが軽減され、競争力が向上する。特に AI 規制が厳しい市場に進出するとき、この効果がより大きく期待できる。



このタグでアクセスし、
さらに議論を深めましょう：
#DataAIPulse